昭和55年6月28日発行

中央大学理工学部 電気工学科同窓会々誌

第 17 号

発行元　〒 112
東京都文京区春日１－３－27
中央大学理工学部電気工学科
TEL.　03－813－4171(内)51

あいさつ

会長　吉　江　実成彦

同窓会の皆様には益々ご健勝にてご活躍のこととお慶び申し上げます。

昨年、第二十三回同窓会で、「母校に同窓生による記念植樹を」と、ご寄付を仰ぎましたところ、趣意をご理解いただいて、皆様より心からなるご厚意をいただきましたことを幹事一同深く感謝致しております。皆様のご厚意を現在増築中の理工学部キャンパスに実現させる所存です。本同窓会の記念植樹事業の趣意にご賛同いただき、引続きご協力くださる様お願い申し上げます。

また、昨年同窓会の席上で、皆様のご賛同を得ました、常任幹事会のメンバーも決定の運びとなり、今後の同窓会の運営が刷新されるものと確信致しております。

さて、第二十四回同窓会総会が来る七月五日（土）に開催の運びとなりました。当日は、同窓会開催前に、同窓会とは別個に、理工学部校舎で、来春新たに卒業される電気工学科学生諸君と同窓会員有志との懇談会を催すことになりました。同窓会の席では、その様子などをご報告できるかと存じますので、皆様にはお楽しみの上ご出席くださる様心からお待ち申し上げます。

寄附者（１口1,０００円，敬称略）

１）個人

福沢先生，深井先生，山口先生

28年卒　吉江，竹中，田中，島田，青柳，小倉
29年卒　黒崎，戸村，池田，平岡，小林
30年卒　行方
31年卒　垣田，堀中，吉村，遠藤
32年卒　青木，杉原
33年卒　穐山，加藤，溝口，市川
34年卒　稲森，古沢，大熊
35年卒　浅沼
37年卒　及川，武山
38年卒　鈴木
41年卒　冨田
42年卒　志村，松本，川上
43年卒　岩瀬，日下部
45年卒　杉原，谷沢，羽山，石川
46年卒　五味
47年卒　佐々木
49年卒　関根
50年卒　帯金，和田
52年卒　山崎
53年卒　目崎

２）団体　営電株式会社

前回募金額（５５年３月３１日現在）

１）個人　７８,０００円　　２）団体　１００,０００円

御挨拶

主任教授　小林健一

五月晴れの青空のもと卒業生の皆様には御元気に御活躍のことと存じます。電気工学科の教職員を代表して一言御挨拶申し上げます。

まず学内状況を簡単に御紹介致しますと……多摩の丘陵にそびえ立つ中大本校（大学本部と法経商文の各学部）につきましては今迄も繰り返し御知らせして参りましたし、昨年度の同窓会総会が多摩校舎で盛大に行なわれましたので皆様良く御存じの通りでございまして、すべてが順調に発展の一途をたどっております。

次にわが理工学部に目を向けますと昨年の会誌にも御紹介致しましたが、一昨年の暮から新築工事に取りかゝり、工事は予定通り進行致しております。本年三月五号館がまず完成しこの四月より約半分の授業が新しい教室で行なわれております。そして残る六号館、七号館、八号館は本年十一月末に完成予定となっております。然しながら今迄の一号館、二号館は損み方がかなりはげしいのと化学科、数学科、管理科等の移転した後を改造せねばなりませんので、理工キャンパス内の工事はまだ数年かゝろうかと思われます。一号館に残る電気工学科と致しましては当分落着かない日々が続くわけで御座居ます。

さて電気工学科内に話を戻しこの一年間を振り返ってみますと……各先生方は皆様相変らず御元気に研究・教育に精出しておられまして大変喜ばしいことであります。そして在外研究員として昨年四月よりフランスへ留学されていた木下源一郎先生がこの三月無事に御帰えりになり、入れ代わりのようにして、榊原先生がドイツへ出発されました。フランスを経てアメリカへ廻り本年九月末迄に帰国の予定と伺っております。更に本年度末には同じく篠田庄司先生が留学の予定となっております。このように専任教員の留学・出張等が引きも切らず、先生方のめまぐるしい御活躍の中でロサンゼルスのCHAN教授、イリノイ大に永くおられ現在広島大学の前田渡教授、前電子通信学会副会長で早稲田大学の平山博教授、横浜国大の石井六哉博士、電々公社武蔵野通研の伊沢達夫博士らの学内講演会等、本学への著名学者の招待も数多く行なわれ大変充実した一年間であったと思われます。けれどもたゞ一つ大変残念であったことには本学に十年程在任され将来を期待されておりました助教授の高橋雄造先生が昨年末をもって突然に東京農工大学へ転出されたことであります。然し同先生の有能ぶりを知る我々と致しましてはどこに行かれても立派に御活躍になるであろうと期待している次第であります。

なお以上の他に技術員として永らく電気科に勤務されて来ました星野修一君（S50年卒）が三月末をもって三恵商事KKに転出し、代って今井良一君（本年三月卒）が新技術員として我々の戦列に加わりました。併せてここで御紹介申し上げます。

このようにして昭和五十四年度が終ったわけでありますが、去る三月二十五日の卒業式には昼夜合計二四五名（理工学部一四九八名・中大八六四〇名）の新卒業生（第二八期生）を社会に送り出すこと出来、新年度の四月七日には昼夜合計二四〇名（理工一二一五名・中大七五九一名）の新入生（第三二期生）を迎え入れることが出来ました。卒業生の皆様と共に御同慶にたえません。五月現在中大電気科丸は順風に帆を上げ安定した航海を続けているわけでありますが、これは乗組員である学内教職員の努力もさることながら卒業生諸先輩の御努力、御援助あってのことでありまして、どうか今后共母校電気工学科の発展のため御協力を戴ければと御願い致しまして御挨拶に代えたいと思います。

昭和五十五年五月（昭和二十九年卒第二期生）

フランス遊学記

木下源一郎

昭和54年度中央大学在学研究員として約10ヶ月フランスに滞在し、この程無事帰国した。短い滞在であったが、自分の研究分野のみならず、日々の生活を通して貴重な体験を得る事ができた。留学先はベルサイユ（Versailles）郊外にある〝情報と制御に関する研究所〟（IRIA, Institut de Recherche d'Informatique et d'Automatique）で、工業用、医療用のためのロボット開発研究を行なっている"SPARTACUS Project"に属し、私はとくにロボットの言語について研究・調査を行なった。

ロボット工学分野においては、我が国は世界のトップ・レベルにあると言われている。しかし、我が国では外国の学位論文、所内資料など手に入れるのは容易なことではない。この点IRIAではこれらの論文、資料および貴重な文献が容易に手に入り、大いに調査、研究を進めることが出来た。この詳細は、別稿に譲る事として、つぎに滞在中の二三の体験について述べる事にする。

日本の町を歩いていても外国人に逢うのは稀ですが、フランスでは誰でもが外国人のようであり、フランス人は、ポルトガル人、スペイン人、イタリア人、アルジェリア人、日本人等、を含めて外国籍の人々の集合体と考えられ、純粋のフランス人は数少ない。昼休みに、何人かのスタッフとコーヒを飲んでいたときに、何かのはずみで中国系の研究員が「この中でフランス人はMichel（若い研究員）だけだなあ」と感慨深く語っていたのを今でも印象深く記憶している。とにかく、昔のフランス植民地の人々も多く、国はこれらの人々の生活も保障しなければならず、種々の問題が燻ぶりかけているようである。

また、フランス人気質について言えば、私は一度もドイツに足を入れなかったが、ドイツに滞在した人は「これでドイツ人がいなければなおいいんだがなあ！」と言い、一年の何日かはフランスに逃避するそうである。ドイツ人は一見日本人と似た所があるようであるが、あの几帳面さは日本人も辟易するらしい。同様に、フランス人に対しては何と言えば良いのだろうか、「もっと真面目にやれ！」と私はさけびたい。フランス人の最も得意とする余暇の過し方は、公園でも、避暑地でもマットの上で何時間もごろと寝ている事であり、我々が彼らと一緒にバカンスを過したらノイローゼにかかるのではないかと思われる。

つぎに、日本人とフランス人との間に見られる大きな特質の違いについて述べよう。一般的に、日本人はいわゆる親方日の丸的であり、家のために働き、会社の利益のために骨身をけずり、国のために一身をささげます。これは少しオーバな表現かも知れませんが、常に仲間を意識し、その仲間に個人を写像して考えます。

フランス人は、常に個人が存在し、子供も成人すると親から離れ、自分でアパートを借り、それぞれの生活を築いて行きます。したがって、アパートには老夫婦だけということになります。日本のように同じ屋根の下に何家族という現象は起りません。子供の幼稚園にしてもフランスでは制服、制帽といったものはありませんでした。子供達は自分にあった服を着こなし、各クラスの先生の責任のもとに運営され、したがって、各クラスとも異なった指導が行なわれます。この様に子供の時から、少しずつ積み重ねられた教育の結果、その国の特質の一部が決まるとすれば、教育の重要さを感じざるを得ません。

最後に、フランスに限らず外国で働く日本人の活躍の偉大さに驚嘆すると同時に日本の教育システムに落ちこぼれないように努力する子供達とそれをバックアップする家族の姿に胸痛む思いがした事を記しておきたい。

卒業後16年を振り返って

東京電力㈱　39年卒　斉藤栄喜

同窓の皆さんこんにちは

私も卒業後満16年を経過し、社会人としてまた企業人として中堅に位置する年代となりました。振り返ってみますと在学中の最後の頃、理工学部が現在の後楽園の高台に新校舎が出来上り新しい施設にて授業をうけたこと、近くの閑静な公園〝後楽園〟を散歩したことなどついこの間のように思い出されます。

39年に卒業し、希望した電力会社へ就職し、現在1年半程前より企業内学校である東電学園の教師をしています。現在勤務している当学園は中央大学多摩校舎とも比較的近く東京郊外の日野市の一角の小高い丘の上にあり、京王線聖跡桜丘駅よりバスで5分くらいのところです。

隣が梅などで有名な百草園で自然に恵まれた教育環境には最適のところですが、近年まわりに住宅が建ち並び遠くに多摩ニュータウンの高層団地も見渡せます。

皆さんもご存知のとおり東京電力は公益企業であり、組織も大きく、従業員も現在4万人弱と極めて多く同窓生も電気関係の他文化系学部の方など多数活躍しています。技術的には発電から配電と分野が広く、最新技術を導入し設備形成を行ない常時その保守を行なう関係から社員教育を特に重視し、社内に学園を設置して教育を行なっているわけです。

さて、若干硬い話になりますが、私が電力会社に入ってからの仕事について少しご紹介します。入社時の希望等もあり配電部門を担務しておりますが、単に配電といっても低圧（100～200V）から高圧（3000～6000V）および特別高圧（22KV）の配電線の建設、保守を分担し、架空線路だけでなく、近年地中配電線も多くなってきており、技術的にも学校で学んだ基礎学問をベースに現場に適応できる最新技術を追求しつつあります。

入社後16年のうち、約半分は地中配電、特にケーブル並びにその付属品関係の規格、設計などを担当し、その後は現場（営業店）の配電線建設保守を担務してきており、いずれまた現場配電部門に戻り、在職中は配電近代化への努力を続けるつもりです。

この間、仕事を通して同窓の諸先輩ともお付き合いもでき、中でも配電機材（開閉器、コネクター関係等）を製造している（株）三英社製作所の市川部長（30年卒）などには大変、ご指導を頂いています。

社会人としての付き合いの中にも、同窓という事で何かと親近感もでき、楽しく仕事ができることは大変有難い事で今後共関係する同窓諸氏との交流をさらに深めてお互いに成長、発展したいと希望しています。

考えてみますと、学校卒業後はどうしても自分の会社仲間との付き合いが多くなり、同窓生との交流が疎遠となりがちですが、同窓、特に同期仲間との交流は又別の意味で楽しく意義あるもので今後はもっと大事にしていきたいと思います。幸いにも、私達39年年卒仲間では篠田、木下両君らが学校に残り、後輩の指導に当っており、いろいろな意味で情報連絡が密にでき、学校の様子がわかりますが、同窓生諸氏はもう少し学校に関心を持つべきだと思い、自らも反省しています。

最後になりましたが、数年前より埼玉県越谷市に居を構え家族四人小市民的生活を送っていますが、近くへお越しの節には皆様、是非お立寄り下さい。

以上

同窓会に入会するにあたって

55年卒　吉田政志

昭和51年、本学に入学以来早くも4年、私も本同窓会へ入会することになりました。はからずも、私は大学院生として研究を続けることになりました。それですから、中大を卒業したという感もあまりなく、「同窓会」といっても実感としてはピンとこなかったのです。そんな折先日、出身高校からの郵便を受け取りました。同窓会の会誌でした。卒業以来一度も顔を出していないのですが、「担任の先生は元気でいらっしゃるだろうか。」とか「クラスメートたちはどうしているだろう。」などと懐かしく思いました。今、この会誌を読んでいられる先輩方にも、同様の状況の方がおられるのではないでしょうか。

もともと、同窓会っていうのはそんな存在であるような気がします。社会へ出て毎日仕事に追われている時、学生時代の思い出に浸ってばかりいても困ります。でも、フッと級友たちの消息を知りたくなることがあると思います。そんな時に、同窓会本来の力が発揮されるのではないでしょうか。

「青春時代は夢なんて
　あとからほのぼの思うもの
青春時代の真ん中は
　胸にトゲ刺すことばかり」

こんな歌が数年前に流行りました。実際、私と同期で社会人になられた方々は、新入社員として新しい生活に慣れるために、毎日一生懸命だと思います。同窓会のことなど考える余裕もないかもしれません。また、私の周囲にも同窓会に対する批判もいくつか聞かれます。

でも、卒業したらそれっきり、それではあまりにも寂しい事だと思います。

先輩方、同期生の皆さん！同窓会を通じて連絡を取り合おうではありませんか。私も微力ながらお手伝いしたいと思います。先輩の方々、どうかよろしく。

新会員の一人として御挨拶まで

記念植樹についてのお詫びとお願い

拝啓　新緑の候，皆様清祥のこととお喜び申し上げます。昨年多摩校舎完成を記念して植樹をすることになり，お願いしましたところ下記の方々から多額の御寄付を賜りました。厚く御礼申し上げます。

しかし，残念ながら目標額には達せず，一方植樹時期を失してしまった関係で，多摩校地への記念植樹は中止せざるを得なくなりましたことを深くお詫び申し上げます。

幸いにも，理工学部校舎の大増築工事が今秋完成します。これを記念して，理工学部のキャンパスに植樹をすることに決定致しました。

何とぞ趣意に御賛同の上，この計画が達成できますよう御協力の程お願い申し上げます。

敬　具

電気工学科同窓会

会長　吉江実成彦

1. 目 標 額　300,000円
1. 募　　額　1口　1,000円
1. 募金期間　8月末
1. 送 金 先　同窓会総会御出席の方は当日会場にて，また，御都合により御欠席の方は

第一勧業銀行池袋支店（普）中央大学電気工学科同窓会

№　192－1466052

富士銀行池袋支店（普）中央大学電気同窓会　宛

№　230－416166

振込用紙にて御送金下さい。

なお，この場合は，同上銀行発行の受領書をもって本会の領収書に代えさせて頂きます。

会則を改正することを総会に提案いたします

中央大学理工学部電気工学科同窓会　会則（案）

1条（名称と事務所）
本会は中央大学理工学部電気工学科同窓会と称し，事務所を理工学部電気工学科内におく。

2条（目　　的）
本会は会員相互の親睦をはかり，併せて母校の発展のための事業を行なう。

3条（事　　業）
本会は前条の目的を達成するため，次の事業を行なう。
1）会員相互の懇親会
2）在学生ならびに教職員との懇談会
3）母校へ寄付行為
4）その他本会の目的達成に必要な事業

4条（会員，名誉会員，特別会員）
1）会員は，電気工学科の卒業生または，在籍のあった者で入会手続きをした者をいう。
2）名誉会員は，本会の事業に参加または協力のあったもののうちから常任幹事会の推せんを経て会長が定める。ただし，会費は免除される。
3）特別会員は，電気工学科に勤務する教職員とする。ただし，電気工学科の卒業生を除き，会費は免除される。

5条（役　　員）
本会に次の役員をおく（任期を2年とするが重任を妨げない）
1）会　　長　1　名
2）副 会 長　3　名
3）常任幹事　若干名
4）幹　　事　若干名
5）監　　査　2　名

6条（役員の選出）
1）会長，副会長は，総会において推たいする。
2）常任幹事は，会長の推せんにより，総会において選出する。
3）幹事は，各卒業年度より推せんのあったもののなかから若干名を総会において選出する。

7条（運　　営）
1）総会は，毎年1回会長が招集し，次の事項を審議する。
イ）事業報告ならびに決算の承認
ロ）事業計画ならびに予算の審議
ハ）役員の推せんならびに選出
ニ）本規約に関すること
ホ）その他総会において審議・議決を要する事項
2）常任幹事会は，定例的に会議を開催し，会務を掌理する。
3）幹事会は，必要に応じて会長が招集し，各事業遂行に協力する。

8条（資産と会計）
1）財産目録記載の資産
2）入会金
3）事業に伴なう収益金
4）寄付金その他の収入

9条（入会金）
本会の入会金（終身会費）は，3,000円とする。

10条（会計年度）
本会の会計年度は，毎年4月1日に始まり，翌年3月31日に終る。

附　則
1条　本会に支部をおくことができる。規約等は別に定める。
2条　本規約の施行は昭和55年7月5日とする。

編集後記

5月9日㈮，中大理工学部で6時30分から幹事会が開かれ，熱心な討論が行なわれ，門限の10時を過ぎてしまいました。
席上，常任幹事が選出され，同窓会運営もかつてない程の活況を帯びてきました。
紙面も多少充実してきましたが今後共皆様方の御協力をお願い申し上げる次第です。　（M．E）